

議事録

第5回 西東京市立田無第三中学校 学校運営協議会（要点記録）	
日 時	令和8年2月25日（水）午後3時30分から午後4時30分まで
場 所	田無第三中学校第2音楽室
出席者	〔委員〕宇田 剛委員、曾我部 多美委員、本田雄三委員、島崎 寛巳委員、伊藤 慎一委員、加藤 直美委員、鈴木 愛美委員、大久保 順子校長、脇山 聖司副校長
	〔学校参加者〕橋本 悠太主幹教諭
	委員9名中9名出席により、本会議は成立
次第1 校長挨拶	
次第2 会長挨拶	
次第3(1) 令和7年度学校評価の報告	
会 長	学校表について、学校側から説明をお願いします。
	《副校長より、説明》
	・「確かな学力の育成と学習意欲の向上」の取組について 生徒が主体的に学ぶ学習展開への授業改善が進んでいる。家庭学習の計画などの取組について、保護者への周知は十分とは言えないように思われる。 ・「豊かな心の育成」の取組について 生徒会主導の取組などで、生徒の自治・主体性が育まれている。相談体制は整備されているものの、生徒が相談することについて消極的な様子も見られる。 ・「心身の健康と強い意志の育成」の取組について 挨拶・時間・身だしなみ等の「凡事徹底」が定着しており、保護者からも一定の理解をいただいている。 ・「学校づくり」の取組について 保護者の情報公開に対する満足度が 98%と非常に高く、タイムリーな発信が信頼を得ている。 ・「業務改善」の取組について 教員の業務への負荷感が増得ている様子が見られ、引き続き、改善に努める必要がある。
会 長	それでは、今、ご説明いただきました。校内評価について、委員の皆様からご意見をいただきます。
委 員	「授業の展開」という項目があるが、実際には毎週参観する機会があるわけではないので、保護者としては評価をつけづらいのが正直なところでしょうか。
委 員	テスト前の学習計画表については、最終的に親がコメントを書く段階で初めて計画表を見ることも多く、家庭での実行状況が見えにくいのが正直なところです。子どもがどう計画し、どうテストまで繋げているかのプロセスが家庭から見えないため、高い点数を付けにくいのではないかと思います。
校 長	今、学校では「自ら課題を見つけ、計画を立てて実行する力」を育てようとしています。しかし、計画を立てることが目的化してしまい、それが実際の学力向上にどう結び

ついたか、生徒自身も我々教員も分析しきれていない課題はあります。

委員 計画を立てて実行した結果、どうだったかという「振り返り」まで生徒が実感できる
といいと思います。点数だけでなく、学び方を身に付ける過程をどう評価するかが重
要ではないでしょうか。

委員 私は会社員ですが、仕事でも目標設定と進捗管理、軌道修正は必要です。中学生
には難しいかもしれないが、年間スケジュールを早めに提示し、見通しを持たせるこ
とは有効ではないでしょうか。

校長 来年度は「学習のしおり」を当初に配布し、年間の流れや評価の観点を事前に示
し、見通しを持たせたいです。保護者にも話題にしてもらえよう、工夫したいです。

委員 自主的な活動に関する生徒の自己評価が96%と非常に高い。これは素晴らしいこ
とです。ただ、こちらも保護者からは学校での様子が見えにくい部分でもあります。

校長 例えば、生徒会がイケデジといういわゆる目安箱を運営し、学校のきまりについても
教員と話題にし、検討する取り組みをしています。生徒たちは「自分たちの意見を聞
いてもらえている」という実感をもたせたいと思っています。

委員 先生に相談しやすいかという項目が少し下がっているのが気になります。

委員 面談の回数は多く設定していますが、生徒側には「もっと聞いてほしい」という潜在
的なニーズがあるのかもしれない。また、中学生特有の心理として「先生に言うと言
題が大きくなるかも」という不安も見え隠れしているのではないのでしょうか。

校長 いじめに関しても、大きな事案はないが、認知に至らないまでも注視が必要なケ
ースはこれまでもありました。保護者から「大事にしたい」という要望を受けることも
ありますが、根本的な解決のために、学校と保護者がどう連携して対応していくかが
大切だと感じています。

委員 挨拶や時間、身だしなみといった項目で、保護者の評価が90%を超えているのはと
ても素晴らしいことだと思います。学校に来て見かける三中生は本当に規律正しく生
活することができていると思います。

校長 ありがとうございます。学習規律の根底には生活規律だと思っています。教員間で
の指導のバラつきはあるため、学校全体で統一した生活指導に努めてまいります。

委員 今年の冬はインフルエンザによる学級閉鎖が他校に比べて非常に少なかった。家
庭での健康管理ももちろんだが、学校での換気や保健委員の啓発活動の効果も大
きいのではないのでしょうか。受験生を持つ親として、学校が健康管理に十分配慮し
ていることは非常に心強かったです。

委員 学校の情報発信については、リアルタイムでの更新は大変だと思うが、学校の様子
が分かると家庭での会話のきっかけになるので、非常にありがたいです。

委員 「すぐる」などのツールを単なる通知だけでなく、親子コミュニケーションの道具と
して活用するよう促しても良いのではないかと思います。

校長 最後に、教員の働き方改革、特に部活動の負担軽減について。部活動の地域移行
の話も進んでいるが、現場は依然として厳しいです。

委員 先生方の負担は理解している。部活動は日本の文化として根付いているが、システ
ムとして限界に来ているようにも思います。

委員 ボランティア精神に頼るのではなく、予算と人材を投入して、外部指導員や部活動指導員が引率まで担えるような体制を整えられればよいのですが。 委員 部活動などを見ている、何でも学校にお任せしている現状はあるのだと思います。 校長 専門的なスキルをもつ人材の活用や、地域との連携は不可欠です。教員が心身ともに健康で、授業準備に注力できる環境を作ることが、巡り巡って生徒の利益になると考えています。
次第3(2)令和8年度教育課程案について 会長 それでは、来年度の教育課程案について、校長先生からご説明ください。 《通常の学級について 校長より、説明》 ・特色ある活動として新たに「三中の日」を明記。生徒が「自分で考え、自分で決める力」を養うための時間としていく。 ・授業時間数について、週29時間で実施する。 ・来年度の主な行事として、5月末に運動会、3月上旬に合唱コンクールを計画。文化発表会の開催方法については、形式を変えて実施したいと考えている。 ・給食回数について、可能な限り実施する方針。「食育」の観点からも、学校で温かい食事を提供できる体制を維持したい。 ・道徳授業地区公開講座は10月末に設定し、保護者が参観しやすい時間帯を工夫して実施する予定。 《特別支援教室について 副校長より説明》 ・個別指導計画に基づき、それぞれの課題に応じた効果的な指導を通常の学級と巡回指導教員の連携を綿密に取りながら組織的に行うことを重要視している。 会長 ありがとうございます。それでは、学校からの説明についてご意見を伺います。 委員 私の子どもも、特別支援教室を利用していましたが、勉強の進め方やパニックへの対処など、個別に関わってもらえる時間は非常に効果がありました。自分から先生に相談に行けるようになったり、メモを取って忘れ物を防いだりといった成長を目の当たりにしているので、ぜひ充実させてほしいです。 校長 通っている子は、コミュニケーションの取り方で成長を感じることもありました。 会長 皆様、ありがとうございました。
次第3(3)その他 会長 それでは、来年度を見据えて、地域と学校が協働した教育活動を充実させるためのご意見を委員の皆様に伺います。 委員 学校評価というのは本当に難しくて、質問項目は大事です。評価の在り方や観点を整理すると良いと思います。 委員 学校は、生徒のために計画を立てて実行しているのを学校運営協議会に参加しているとよくわかります。それを伝えていきたいと思います。 委員 子どもと保護者の会話の大切さを感じています。面談の機会を多く持っているのに、保護者からはそれほど評価をいただけていないのは残念に思います。子どもとの会話は本当に必要だなと思います。 委員 委員として学校を見ていると、子どもがどこまで力を身に付けていくのかが分かり、

よかったです。

委員 この会は、忌憚なく委員の皆さんが意見を交換するよい会であると思います。参考になる部分があれば、今後の教育活動に生かしてほしいと思います。

委員 主に放課後の姿をよく見かけますが、部活動の子たちは規律をもって生活できているのかが分かります。引き続き見守っていきます。

会長 ありがとうございました。では、進行を司会に戻します。

次第4 事務連絡

副校長 来年度も5回の開催を予定しています。後日調整させていただきます。

以上をもちまして、第5回学校運営協議会を終了します。